

林 大 だ よ り



第 68 号 平成 26 年 10 月 31 日

長野県林業大学校翌校友会



2 学 年 オーストリア研修 (チロルにて)



1 学年 屋久島研修



2 学年 保健休養学 (松本市乗鞍)

林業や山村の人づくりを考える

長野県林業大学校 校長 田島 裕志



違いはあるものの、一人の人間を成長させていくという観点からは同じであり、学校と企業がどのように連携し並走しながら人を育てていくかは重要な課題だと思う。

クロージアアップ現代というNHKの番組で、「成長への人材戦略」という放送を見た。今年の大卒求人は昨年比二十五%増となり、企業間で新卒の奪い合いが激化、人件費削減の名のもと社員のリストラや正規職員の採用を見合わせてきた企業が、あの手この手で優秀な人材確保に奔走している、といった内容だった。今更というか、経済状況に応じて自在に方針を変更していくことは生き残りのため当然とみるか、色々な見方ができると思うが、人づくりという視点から考えると林大にとっても他人事ではない。

『森林づくりは百年、人づくりは千年』ともいうが、高校、林大、大学といった学校教育から企業による人材育成まで、それぞれ内容や手法に

値により将来が振り分けられていく日本と、将来目標に沿った実践的教育が行われているオーストリアとの違いを思わず考えさせられてしまった。それは、歴史や文化の違いも当然あるが、全国を同じ尺度で測るのではなく、一人ひとりが多様で主体的な生き方を選び取っていくような国民性の違いからも生じているようにも思えた。

寮制を通じた日常の暮らしの中から山村の現状が学べるころがあると思う。さらには、長野県内の森林組合や林業事業体、製材工場等から生きた林業を学べることもある。学校は社会の要請から独立して存在はできない。特に林大はそうだ。学校という閉じた世界でなく、地域や林業界の皆さんとともに人づくりを行っていることが、林大の最大の特徴であり、今後社会的にも必要とされる人材はこうした中から育つものと思う。お世

カラマツという世界共通語

元長野県

林業総合センター 所長

武井 富喜雄



私は授業の中で、学生諸君にカラマツにかかわる話をすることが多い。学生への話と重複するくらいはあるが、ここでは高遠藩出身の中村弥六とカラマツにかかわる話を紹介したい。弥六は江戸末期の

安政元年（一八五四）、信州高遠藩で歴代続く儒官であり医者の中村元起の次男として生まれた。藩士の子弟を教育する進徳館では抜群の成績を収め、十六歳で上京して、明治三年（一八七〇）、開成学校（後の東京大学）でドイツ語を勉強した。明治十一年には内務省地理局（後の山林局）に翻訳生として入り、ドイツからの林学書を翻訳していたが、国土の約六割を占め

話になった地域や企業の人々に感謝の念を忘れず、「そこで得た知識を使つて、林業や山村に横たわる問題を解決していく」といった人材が数多く現れてもらいたいと願っている。大企業が人材の育成と確保に奔走している今、いままでは以上に林業界や山村地域がスクラムを組み、地域の中核となる人材を早い段階から確保し育てていくことが必要な時代になるような予感がしてならない。

る森林を持つわが国が貧しいのは、森林を活用していないからだと考え、明治十二年（一八七九）、私費を投じてドイツに留学した。その間、彼は日本からカラマツの種子を取り寄せた。これがドイツでの二ホンカラマツ造林の始まりである。その後、二ホンカラマツは地元産ヨーロッパカラマツと比べ幹ががん腫病に強く、樹幹が通直で成長も良いことなど優れた性質がわかり、ドイツでの高い評価により北欧各国への二ホンカラマツ造林が広がった。

弥六は帰国後、御料林の創設（明治二十三）に努力さ

れ、また明治八年の官民有区分で村持入会地が官有に編入されてしまった林地の下げ戻し法制定（明治三十二）に、民衆の先頭に立って努力された。

私事で恐縮だが、かつて私は北米に分布するカラマツ属三種が標高こそ違え、ほぼ同一地域に分布しているアメリカのロッキー山脈山麓の小さな町で開催された「世界のカラマツの生態と施業」の会議に参加することができ、我が郷土のカラマツの生態と育林施業について紹介する機会を得た。

会議の中で気づいたことは、世界に分布するカラマツ属約十種の中でも、ニホンカラマツが非常に評価が高いことであった。これもカラマツを世界に紹介した先人に感謝するとともに、もし学生諸君が卒業後、欧州やシベリヤ、北米など他種のカラマツが分布する諸外国に出掛けられた折には、きつとカラマツという共通語によって林業関係者との意思疎通が図られ、より充実した仕事や旅ができるであろうことを確信している。

林大生との出会い、 そして期待すること

株式会社

勝野木材

代表取締役

勝野 智明



弊社は私の祖父が始めた「山仕事」が原点で現会長が昭和三十八年（有）勝野材木店を設立し、平成十五年に（有）勝野材木と（有）ヤマカ材木に組織変更し昨年創立五十周年を迎えました。

（有）ヤマカ材木は、国有林の素材生産請負事業を年間約二万㎡行い（有）勝野材木は年間約一万五千㎡の素材を公売で購入し、一般建築用材を製材し加工販売しています。現在グループ総勢八十七名で事業を展開させていただいております。

平成十六年から十年間にわたり、林大卒業生十一名に入社いただき現在七名（内女性一名）の方が、素材生産の現場や製材木工業の現場で一生懸命頑張っています。

林大生との出会いは、かれこれ二十年程前に小池正雄先生が木材商業論の授業の一環として弊社へ工場見学にいらしたのが始まりで、現在も毎年お越しいただいております。この工場見学で弊社の仕事に興味を持ち入社した学生さんもあります。

林大生のみなさんに期待することは、弊社がこれから新しい事業展開をしていく上で、林大で培った技術と経験を生かしリーダー的な役割を担っていただくことです。やはり企業は人なりの言葉の通り、後継者が育たない限り林業の未来はありません。

弊社の企業理念は、「持続可能な森林経営を構築することと社会貢献する」であります。この企業理念をご理解いただき、林業は3Kの代表ではなく環境産業であることを踏まえ、林大生の活躍できる場を企業として作り続け、そこで精一杯働いていただければ、必ず循環型の皆が幸せに

お知らせ



さきおり なおみ
佐郡 苗緒美さんです。よろしくお願いします。

10月より食堂の業務をお手伝いしていただきました寮母さんをご紹介します。



新実習棟兼女子寮の建築が順調に進んでいます。現在基礎工事を行っています。
(H26. 10. 7撮影)

なれる林業が構築されると信じております。
最後に林大生との出会いのきっかけを作っていた田島校長先生小池正雄先生を

始め、歴代の校長先生教授の皆さまに感謝すると共に、林大の益々の発展をお祈り申し上げます。

長野県からのお知らせです



銀座 NAGANO

しあわせ信州シェアスペース

東京 銀座に10月26日
信州の魅力をまるごとシェアする
「銀座 NAGANO」がOPEN。
くわしくは
<http://www.ginza-nagano.jp>
をご覧ください。

学生の
ページあす
なるの
呟

つぶやき

学 校 ・ 寮 生 活 か ら

此
処
か
ら1 学年
岡本 有紀

林大の入試直後、帰りの車
内で父に「絶対落ちた」と弱

音を吐いたのを思い出す。長
野県外の普通科高校出身の私
が受かるわけがないと確信し
ていたからこそ、合格発表に
私の番号があった時は余計に
涙が止まらなかった。

入学して半年が経った今、
様々な面で支えてもらい、振
り返れば全てがあったり。林
大を選ばなかったら決して
繋がることのないこの出会

ランチタイムラーニング

がとてもかけがえ
ない。本当に出会
えてよかったと
思っている。ま
た、寮生活を通じ
て家族や友人の大
切さを強く実感し
た。支えてくれて
ありがとう。

未だにチェン
ソーと相性が合わ
なくてうまく使い
こなせないが、目
立てや掃除などを
怠らず、しっかり
管理していき

高校を卒業して林業大学校
に入学してから早くも半年が
経とうとしています。私は人
見知りなので他の人達と馴染
めるのか心配でしたが、先輩
方も同期のみんなも話しかけ
たりしてくれて、すぐに仲良
くなれました。この学校は全
寮制で、最初の頃はとても不
安だったのですが、同室の先
輩ともう一人の一年生は分か
らないところは教えてくれた
りしてくれてとても助かりま
した。少しずつでも良いので
恩返しができるようにしたい

1 学年
酒井 翔之こ
れ
ま
で
を
振
り
返
っ
て

い。そして進路の方も、たく
さん意見を聞きながら自分の
やりたいことを見定めて道筋
を立てていこうと思う。

当初の不安や嫌気も今とな
ればいい経験で、これから抱
える悩みや苦しいこともきつ
と人生の大きな糧となり、強
みになってくれるであろう。

四月には
屋久島研
修、七月に
は御嶽山登
山などこれ
までのたく
さんの実習
がありました。
特に屋
久島研修と
御嶽登山は
とても疲れ
ました。高
校生のとき
も山に登っ
た事があり
ましたが、
そのときよ
りも何倍も
疲れました。このときに思っ
たのは、林業従事者になるた
めには人との対話能力も必要
ですが、毎日の厳しい作業を
こなしていくための体力もと
ても大切だと思いました。こ
れからもたくさんさんの座学や実
習があり、内容もより専門的
になってより難しくなると思
いますが、挫けずに乗り切り
たいです。自分の将来の目標
である森林組合就職に向けて
頑張りたいです。

1 学年
高木 佑也こ
の
半
年
で

林大に入学してから、十月
でもう半年になります。早い
ようで長い半年という期間の
中で、私達一年生は多くのこ
とを学び、実践して来まし



1 学年 御嶽登山（山頂）

た。

私達三十六期生は晴れ男や晴れ女が多いのかは分かりませんが、今までの大半の行事では雨が降ることはなく、四月に行われた屋久島研修では、一年三六六日雨とまで言われる程雨の多い島で奇跡的なほどの青空が広がり、周りの景色に視線を巡らせながら登頂することができ、前日まで降っていた雨の滴に太陽の光を乱反射させる苔むした原始の森は、神々しいほどの美しさを私たちに見せてくれました。

入学する以前は、林業と言うだけあって体力が必要なのだろうと考え、非力

な私はやや不安を感じていましたが、いざ入ってみると体力よりも気力でどうにかなる部分が多く、実習を重ねれば自然と体力もついて行きました。

まだまだ知識、技

術ともに未熟な私ですが、少しでも早く先輩方に追いつけるよう、日々を過ごしていきたいと思います。



体験研修発表会（講堂）

林業大学校に

入学して

1 学年
富澤 耕太郎

私の出身は長野県伊那市。高校は三重県にある私立の農業高校に行き、そのあと、高校の研修で一年間沖縄県の西表島の農家で働いていた。な

んで三重や沖縄に行ったのか

とよく聞かれるが、理由はあ

まりうまく説明できないのだ

が、多分勘だと思う。

その勘は意外と当たっていて、三重県でも西表島でもたくさんさんの人と出会うことができ、一生付き合う仲間もできた。

林大への入学は、西表島で研修をしている間に決めた。高校の時から「木」というものに興味があった。しかし、西表島にいたので試験の日まで林大に一度も行けなかった。

そして今、林大生活の半年が過ぎようとしている。寮生活は、高校の三年間も寮だったので久しぶりという感覚だ。しかし、高校のときと違い、同じ方向（ある程度）を目指す仲間たちと暮らすのは面白い。色んな考えがあり、勉強になる。また、授業は二学期に入り専門的な分野が多くなってきた。これからの林業技術、林業経営、世界情勢も授業に取り上げられる。すごく難しいことばかりだが、やり甲斐があり楽しい。インターンシップにも行き、また



入 学 式

色んな人にも出会うことが増えてきた。林大に入学して良かったと思っている。

二年間というのは、あつという間に過ぎてしまう。今、できることを精一杯やって林大生活を送っていきたい。

インターンシップで
学んだこと1 学年
三浦 有矢

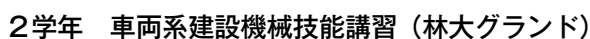
私は今年の夏に造園会社へインターンシップに行きまし



1 学年 ほお葉巻き体験（木曽町・ふるさと体験館）

た。なぜ造園会社かというと、林大に会社の説明をしに来てくださった方が、「仕事を選ぶときは、何の仕事をしたいではなく、どんな人と仕事をしたいかを重要視すべきだ」と言っていたときにこういう考えもあると知りました。その出来事がきっかけでこの造園会社を選びました。

実際にインターンシップ先へ行って多くの作業員の方に「なぜこの会社を選んだのですか？」と聞いてみました。驚くことに、みなさん口を揃えて「造園はあまり興味がなかったが、この会社の人柄に惹かれた」と言っていました。五日間作業員の方々と一



林大に入ってからあつとい
う間に月日が経ち、今はもう
二年生の九月になつてしま



林大生活を
振り返って

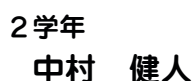
後半年を切った二年生としての最後の林大生活、後悔だけを残さずに過ごしたいと思います。

い、林大生活が残りわずかなということを最近強く感じています。

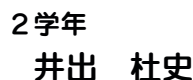
林大生活を振り返ってみると、一年生の前半は、寮生活や人間関係、勉強などに慣れてきた頃には終わっていました。後半は、基礎的な学習や実習をさらに積み重ねましたが、ただ楽しくやってきたって感じの一年間になっていました。

しかし、二年生になると、一年生での経験や就活をしつかり考え始めたことから、自分に足りないことや、やらな

林大生活も早いもので残り半年となりました。思えば初めて親元を離れての生活は、慣れるまでとはとても大変でした。実家で生活しているころは、ご飯は毎日毎食作ってもらえ、掃除や洗濯まですべて



二年目の寮生活



私は二年生になった今、感じて

とがあります。

感じていることの一つに現地研修の多さがあります。通常の授業もそうですが、海外研修など国を越えた現場での学習など、一年生の時に比べ現地研修が多くなりました。これら現地研修は、今までの学習内容をしつかり復習して臨むことにより実りが多いものにするのが可能で、一年

ことがありま
す。ですが、将
来計画の実現に
向けて共に努力
する仲間がいる
林大独自の環境
がその不安をか
き消してくれて
います。



2学年 高性能林業機械実習（信濃町）

ければいけないことを意識するように、メリハリを大事にしていこうと考え始めました。(例えば、勉強するときには勉強に集中する。ゲームをやりたいときはゲームをやる。決めたことはやる。など)

今や林大生活は残り半年となりました。来年はもう社会人になります。自分が必要なことやもつと勉強しなければならぬことは山ほどあると感じています。その残りの半年間で、自分に足りないことをベストを尽くしてやっていこうと思っています。



国土交通大臣表彰を 受賞しました

アダプトシステム
(清掃美化里親制度)



親や祖母にやってもらっている生活でした。しかし、林大では洗濯は自分で行い、食事は平日寮母さんが作ってくれますが休日は自分で作らないとありません。何から何までほとんどのことを自分でやらなければなりません。私は親元を離れ寮生活をする事で家族のありがたさを感じることができました。

また、仲間や後輩がいるので休日は一緒に料理をしたり、燻製を作ったりBBQをしたりと寮生活だからこそできると思いました。寮生活は最初慣れるまでは大変だけど、慣れれば毎日泊りで合宿をしているような感じでとても楽しい日々を送っています。残りの林大生活もたくさん思い出を作りたいです。



地元は大阪だけど自然が多く山遊びや川遊びが出来る、割と田舎な所だから野生動物に遭遇することも割と珍しくない。が、熊や猪に遭遇するという危険性はないので、夜の一人歩きはどちらかというと不審者などに注意することが常だった。そんなところから木曾に来て先輩に夜出歩くことを心配されたとき、襲う方も相手を選ぶだろうから大丈夫だと言うと、「変質者は鉋鋸提げてりや逃げるけど、熊や猪は鉋鋸じゃ太刀打ち出来ないよー」と言われた瞬間、驚きのあまり何も言い返せず、未だにその言葉が一番衝撃的です。所変われば...と言うがその通りで、未踏の地に行くことは今まで通りにいかないことも多いが、その分新しいことに挑戦出来る良い機会でもあることをここに来て学んだ。来年は住み慣れて

ところ変われば



2 学年
藤沢 みつ子

林大って良いな



2 学年
和田 峻輝

きた木曾を離れてまた新たな地にでむくが、恐れることなく新しいことに挑戦しようと思う。



2 学年 水無神社みこしまくり
職員の原主任も頑張りました。

高校の頃はただ単に野球がやりたくて商業高校に入り、後先考えずに野球に没頭していた。野球部を引退してからこれから先の進路をどうしようか考えているとき、先生にたまたま勧められたのがこの

林業大学校だった。いろいろ考えている中で自分の地元が田舎であること、昔から森の中で遊んでいたことなどを思い返すと、「自分の地元の森を守れたらな」と考えるようになり、それがこの学校に入るきっかけになった。

入学してからは素晴らしい仲間・先輩方に出会うことができて、毎日が新鮮な日々だった。林業という分野も自分が考えているよりもはるかに興味深く、新しい発見ばかりだった。残り半年の学校生活だが、これからのためにも勉強しながら、最後の学生生活を楽しみたい。そして、この仲間たちと最後は笑って卒業し、それぞれの夢に向かっていけたらいいな。

保護者の
ページ絵
の
一
言

水を得た

魚のように

小池 加奈子



縁あって娘が林大に入学し、半年が過ぎました。最初こそ、環境が変わり大変そうだなあと感じる所もちらほらと見え隠れしていましたが、今ではそのような事などが、微塵も感じられないほどに馴染んで、逞しくなったように思います。自然が大好きな娘にとって、屋久島研修、御嶽山登山、北海道でのインターンシップ。どれをとつても楽しくてしょうがない思い出となったらしく、帰って来てその時の報告をしてくれる娘の目はキラキラと輝いていて、本当に良い環境の中で過ごさせていただいているんだと実感しています。

高校を卒業するまで、何となく自分のやりたい事をやり切れていないような、ただ何となく毎日を過ごしているように見えていた娘が、今では水を得た魚のように生き生きとしていて、親としても嬉しい限りです。

残り一年と数カ月、あつという間に過ぎてしまうであろう残された林大での生活を、悔いのない充実したものにしてほしいと思います。

林業大学校に感謝

高山 正和



早いもので、林業大学校に入学して、半年が経ちました。入学式では、息子の緊張感と不安感で心細げな様子に心配をしていましたが、なん

とか馴染んで居る様で安心していきます。

学校生活では、授業はもとより、様々なイベント等に参加されている林大生の活躍を新聞等で拝見させて頂いておりま

すが、息子にとつて大変貴重な経験になり、最初はどうなることかと心配していましたが、今後の人生観がより良いものになるであろうと安堵しております。先日、帰省した際の顔付きが、男らしくなってきたように思われ、残りの一年半の学校生活で更なる成長を楽しみにしています。学校の先生・講師の方々、地域の皆さん、又、寮の先輩方や同僚の方、木曾の大自然に、沢山の知識や体験を積まさせて頂き、大変感謝しております。

林業大学校に入学出来た事は、この上ない喜びと、夫婦共々感じているところです。



1 学年 林業概論（校長先生と）

娘へ

成田 友子



入学してから、ほとんど連絡はなし。メールも一方通行。日々が精一杯なのか、それとも楽しくて仕方がないのか。

やっと帰省した時に、その心配がすっかり吹き飛びました。



1 学年 造林学実習（全国植樹祭用苗木づくり）

次々と出てくる林大での生活の数々。かなり充実した日々であると確信が出来、安心しました。これからは、温かく見守ってほしいと、や々と覚悟することが出来たのですよ。

木曾には縁があり、母方祖母の疎開先で、先祖のお墓もあります。何十年ぶりに墓参が出来たこと、あなたのお蔭と感謝しています。

これからは、学校関係はもちろん、自然の恵みや地域の方々、周囲のすべてに感謝の心を持ち続けて、寮生活で培った人間関係を大切に、次の一歩へ大きく踏み出してほしいと、心から願っております。



看護の日（信州木曽看護専門学校からの訪問）

普通科の高校へ進むと思いきや、農業高校へ進学し、そ

い。息子が体験を通して知識技能を体得し、後継者不足で課題山積の日本の林業界で、森林の維持発展に貢献してほしいと願っている。その過程で今まで自分に不足していた力、姿勢に気づき、自ら動き出すことを期待している。

「木曾にね、林業大学校があつてね、そこへ行こうと思うんだけど」高校二年生の息子がそう進路について話してきました。林業について全く無知の私に、「林業の盛んな県はどこでございね、林業大学校ってこんな所にもあるんだよ」息子が私に教えてくれました。あれから三年。無事長野県林業大学校にお世話になることができました。その後先生方から教えて頂いたことや海外研修で得たこと、職場体験で経験したことなど、帰省するたびに話してくれ、それを楽しみにしていました。九月に入って本格的に就職活動をしています。ここでもいろいろな企業の業務内容など教えてもらいました。気が付けばここ数年、息子には、教えられることの方が多

二年前オープンキャンパスで木曽福島に降りた時、さわやかな自然の空気に心が和みました。

高校進学の時、北桑田高校の森林リサーチ科に行くこと決めた息子。今度は「林業大学校に行きたい。長野の」と未知の場所を選択しました。親としては少々遠いかな、と不安に思いましたが好きなところに行くのだし頑張ってくれらるだろう...と。でもその不安はすぐになくなりました。入寮時の先輩たちの率先した適切な態度、連休に帰省した時

す。
追伸、時々連絡すること。

夢を追う中で

見えるもの

湯澤 章平



普通科の高校へ進むと思いきや、農業高校へ進学し、そ

して林業大学校へと進んだ。元々生き物や自然のことに興味があり、将来はその方面の仕事をめざすのであろうと漠然と思っただけだったが、予想より早く舵を切ったことに少々驚いた。親として、高校以降の進路を規定するつもりはない。本人が進みたくて、しかも世の中のためになる道ならばそれでよいと思っっている。無目的に高校や大学に入っても、将来ものの役に立たないということは既に明白なこと。自分の専門分野を究めて、それによって世のため

教えること

学ぶこと

赤沼 智大



かったと思います。だから息子に言いたい。何歳になっても学んでほしい。林大で得たことを基礎に、就職しても多くを学んでほしいと思います。

豊かな自然の中で

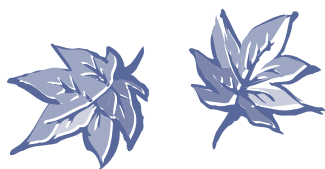
大川 礼子



には姉たちと楽しそうに林大の話をしていた様子を見て、自分に合った場所を見つけたのだと感じました。

美山の自然の中で夏は川遊び冬は雪、と四季折々の変化を体感じて育つてきました。都会ではなく木曽福島を選んだことにうれしい思いがしました。

寮生活を通して人間性を養い、つらいことや友と楽しく遊んだことなど、たくさん経験と思いができたことでしよう。そして林大生を大切にしていただいている地域の方々のあたたかさにふれながら過ごさせて頂いた大切な二年間、感謝の気持ちを忘れずにいて欲しいです。見上げる木のように大きくなった息子に今は見降ろされる母。これからはたくましくなった息子の後姿を見守りたいと思います。



木曾路に抱かれて早いもので卒業です。山形の地より知人もいないところで一人、そして全寮制での暮らしに親としては不安でした。子供は親以上ではなかったかと思えます。しかし、その不安は入寮の日に吹き飛んでしまいました。車で寮の入口に着くなり



木曾御嶽山に 見守られて 柴田 昭弘

同級生が、日々仲間との繋がりを感じています。授業では多くの方々にお世話になり、大自然での実習、地元住民との交流、寮での美味しい食事など、木曾の地でなければ体験できないことばかりです。今、人との関わりが問われる中で人とうまく接するかを教えていただき、林大の教えである全人教育の素晴らしさを感じています。残り半年となりましたが、林大で感じ、身に着けたことを今後の人生に役立ててほしいと思います。共に暮らした仲間へ感謝です。親元ではできなかったことを木曾の地（林大）にて学べたことに感謝しております。



2学年 木材加工学実習
(林業総合センター)

先輩たちが駆け寄り荷物はありませんか。そして多くの荷物を運び入れてくれました。その自然な振る舞い、笑顔に癒されてこの先輩たちと日々暮らすなら大丈夫と思いました。昨年駅までの送迎は先輩が、今年は

恩を忘れず、 先輩に学べ 西田 昭和



私が生まれ育った所は、徳島県と高知県の境の周囲山ばかりの寒村です。

そのため、当然村民の生業は林業が大半でご多分に漏れず私の先祖代々も山仕事で生計を立ててきました。

川の水量の多い夏には、川遊びをする私たちの目の前を沢山の木材が流され、浅瀬や岩、淀みで流れないときは、たくましく日焼けした大人が木から木へ飛び移りながら「トビ」を操って本流へと導き、木溜場へと運んでいました。昭和四十年代の懐かしい思い出です。

息子も入学以来一年半、帰省するたびにたくましくなった姿に、林大の関係者の皆様方、また、学友の皆様のお蔭と心より感謝しております。卒業後は、お世話になった

方々の恩を忘れず、先輩の背中から多くを学んで欲しいと願っております。

努力は…

森 優美子



努力は報われる、と言いますが、本当にそうでしょうか。報われない努力は多い。努力は宝くじと同じだそうです。買ったからと言って当たる訳ではない。けれども、買わなければ当たらない。

い。

プロ野球のイチロー選手の言葉に

「夢や目標を達成するには一つしか方法がない。小さなこと



2学年 岐阜県立 森林文化アカデミーとの交流（中津川市）

を積み重ねること。」
「夢がだんだん近づいてくると、目標が変わってきます」と言うのがあります。彼のファンではありませんが共感します。

娘、円佳はまさに目標に向かって、努力と言う宝くじを買い続けている。時には周囲からブレーキを掛けなければならぬくらいに爆走して行く。どこにそんなエネルギーがあるのだろう。

林大生の皆さん、先生方、こんな娘ですが、残り少ない学校生活、よろしく願いします。

後輩たちへ



榎吉本
上野事業所長
水間 俊夫
(第9期生)

林大を卒業して早二十五
年の月日が経ちました。今回林
大だよりの寄稿依頼を受け、
木曾での二年間の生活を思い

森に学び、
豊かな人生を
歩もう

教授
竹内 嘉江

この四月から、林業大学校
で元気な学生たちを相手に勤
務することになりました。保
護者、関係者の皆様には色々
とお世話になりますが、何卒
よろしくお願いいたします。

檜の
アドバイス

起こしてみました。毎朝のラ
ジオ体操から始まる寮生活、
間伐・植栽実習の昼食で食べ
たトン汁の味、山路書店での
アルバイト、町内テニス同
好会での楽しいひと時等々、
色々な思い出が懐かしく蘇り
ます。

そんなこんなで卒業し、現
在の会社にお世話になって
二十五年。入社当初はカラマ

さて、多くの古代文明は森
林資源を消費しながら、発
展・衰退していったことが考
古学の定説となっています。
ギリシアのミケーネ文明(紀
元前十六〜前十二世紀)は、
森林を破壊し地中海に魚がい
ない状況をつくり、荒地に育
つオリブの生産量を増やし
衰退しました。古代ギリシア
文明(紀元前八〜後一世紀)
は、哲学や科学を発達させ、
大麦・小麦・オリブ・ブド
ウを多く栽培しましたが、人
口増加や放牧、造船、覇権を

ツ間伐現場の山土場で、検竿
をもって尺取りの毎日とし
た。現在は、社有林六千haを
管理すると共に、森林管理
署・県・市町村・個人の方か
らの請負事業も行っており、
この二十五年で林業も大きく
変わったと感じます。高性能
林業機械の普及により生産性
が大きく向上し、育てる森林
から利用する森林へと時代は

めぐる戦争の連続で森林を破
壊し、森林資源の残っていた
マケドニアを中心に移しまし
た。ローマ文明(紀元前四〜
後四世紀)は、農地・居住地
の拡大、建築、銀の製錬によ
り木材を大量に消費し、食糧
不足により崩壊したとされて
います。

はいつてきました。国策によ
り、二〇二〇年には国産材
シェア五十%以上を目標に、
木材の安定供給と利用拡大に
向けた体制が整ってきていま
す。そういった中で、お客様
が何を求めているのかを把握
し、対応できるよう努めてお
ります。

最後に、これから社会に出
る林大生にアドバイスをする

とすれば、何か
一つ自分で得意
な分野を持つ、

される時代に
なってきました
が、都市部で一

見便利な生活をしている人た
ちは、頭では分かっているも
実感してその大切さが理解で
きていないのが現状です。こ
こ暫くは、学生たちと付き合
い、頭と体の両面から森林・
林業の大切さ、森林と関わり
て生活していくことの素晴ら
しさを伝えたいと考えていま
す。

全寮制で全人教育を実践し
ている林大において、学生た
ちは厳しい規則や集団生活の
中で、不自由さや堅苦しさを
感じているかもしれません。

誰にも負けないものを身につ
けること(例えば架線技術・
測量技術・機械等の運転、整
備技術・樹種の名前等)何
でもいいんです。何か一つ。
きつと社会に出て役立つと思
います。もう一つ、何事にも
積極的に取り組むこと。失敗
を恐れずに。これからの林大
生の活躍に期待しています。
久しぶりに木曾谷を訪ねて
みたくなりました。

しかし、私は是非とも「則天
去私」、「吾唯足知」といった
日本的な精神も体得してもら
いたいと考えています。この
ような言葉が理解できること
は、将来必ず人生の糧となる
ものです。

地球上には、海洋、森林、
農地、河川等様々な環境があ
りますが、関心をもって林大
に入学した若者には、森林・
林業について広い視野を持ち
深く勉強してもらい、地域の
リーダーとして未来の明るい
日本を担うたくましい人間に
成長していただきたい。大い
に期待しています。

我 ら 林 大 生 !

1 学年
特用林産実習（実習棟）



1 学年
県植樹祭・山の日イベント
（映画「WOOD JOB」矢口監督、阿部知事と）

オープンキャンパス
（学生スタッフによる学校紹介）



2 学年
木材商業論（伊那市）



2 学年
水無神社みこしまくり（木曽町）

編集後記

五月の話である。寮母さんから「寮生からお花やメッセージをもらった」と言われた。母の日のプレゼントを初めて頂戴したとのこと。とてもうれしそうに話をされ、見せてくれた。

学生が皆で相談して行ったことと思う。素直な感謝の気持ちの表れだと思った。

私も親元を離れ、一人暮らしの学生生活を送ったことがあった。初日、誰とも話をせず、腹が減って、パンを買って食べた。不安や孤独もあったと思う。それまで当たり前のように食事を作ってもらって食べていた。どれほど親に依存していたのかと思い知った。ありがたかった。

寮母さんは一日三食を提供してくださっている。食事作りのほか片づけなどもある。そんな中でも、寮母さんが学生の話に耳を傾けている。結構相談事や恋愛話など様々な話をしているようだ。そんな関係もいいものだった次第である。

（上）